

宇部市教育委員会教育長賞

「家族と命を守るために」

宇部市立西岐波中学校 3年 ^{うえだ}上田 ^{な お}菜桜

去年のお正月、能登半島で大きな地震がありました。テレビでそのニュースを見て、とても驚きました。倒れた家や火事の煙、寒い中で避難している人たちの姿が心に強く残りました。元日だったので「新年のあいさつをしていた家族もいたんだろうな」と考えると、胸がぎゅっと苦しくなりました。

この出来事は、自分には関係ない話ではないと感じました。実は、私の家族には今、特別なことがあります。姉が妊娠していて、もうすぐ赤ちゃんが生まれます。もしも地震や火事が起きたら、姉と赤ちゃんをどう守ればいいのか。そう考えると、不安な気持ちでいっぱいになります。

そこで、今年に入ってから家族で防災について真剣に話し合いました。まず、防災リュックの中身を見直しました。水や食べ物、懐中電灯などはもともと入っていましたが、妊婦さん用のマスクやカイロ、母子手帳のコピー、体調管理のための薬やサプリメント、そして休めるように簡単なクッションも用意しました。災害時に何が必要かを考えるのは難しいですが、命を守るためには欠かせないことだと思います。

私の家の近くには高齢の方が多く、普段から体の自由がきかない方や、すぐに助けが必要な方もいます。災害時には、自分の家族だけでなく、そうした近所の人たちにも気を配りたいです。例えば、避難場所までの移動を手伝ったり、必要な情報を伝え合ったりして、みんなで助け合うことができたらと思います。そんな支え合いが、命を守る大きな力になると信じています。

母と一緒に、姉の体調を第一に、災害が起こったときの地域の方との関わり方などをイメージして防災準備ができたことは、とても良い経験になりました。「非常時に本当に必要な物は、家の状況によって変わる」ということにも気づくことができました。だれかの真似ではなく、自分や自分の身の回りの人たちのための防災があるのだと思います。

自然災害や火事は、いつどこで起きるか分かりません。だから私はこれからも、家族や未来のために、自分にできることを考えながら行動していきたいと思います。

